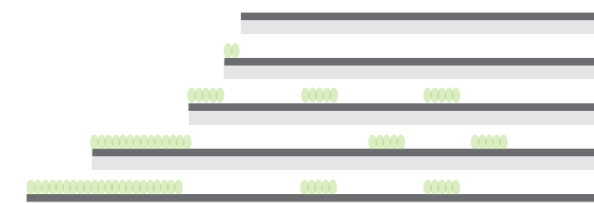


知多市新庁舎

基本設計概要版

1. はじめに
 2. 計画概要
 3. 配置計画
 4. 平面計画
 5. 防災計画
 6. 環境計画
- 巻末・用語集

令和 6年2月
知 多 市



1. はじめに

本市では、朝倉駅周辺をにぎわいの交流拠点とするため、平成30年3月に、「朝倉駅周辺整備基本構想」を策定し、「知多市の玄関口にふさわしい“顔”づくり」をコンセプトに整備方針を定めました。

その先駆けとして「知多市都市計画マスタープラン」の方針や「知多市公共施設等総合管理計画」の理念を踏まえ、駅前に新庁舎を建設し、行政機能の向上や市民の憩いと交流の場として利便性の高い空間の整備を行うことを目的に、令和元年6月策定の「知多市新庁舎整備基本計画」においては、新庁舎内部の機能構成や規模、事業計画を検討しました。

そして、基本計画に示された目標とする4つの庁舎像、並びに6つの基本機能のもと、新庁舎の基本設計に取り組んでまいりました。

このたび、市民ワークショップ等でのご意見も参考にしながら、様々な検討を重ね、基本設計の概要をまとめた「知多市新庁舎基本設計（案）概要版」を作成しましたので、その基本的な考え方や内容をお知らせします。

知多市新庁舎整備基本計画(令和元年6月策定)

目標とする庁舎像

人にやさしい庁舎

年齢、性別、国籍や障がいの有無を問わず、全ての人にとって使いやすく、わかりやすい庁舎とします。

市民にひらかれた庁舎

市民が気軽に足を運び、にぎわいや交流が生まれ、情報発信の拠点となる、より市民に開かれた庁舎とします。

安心・安全な庁舎

防災、災害対策の拠点となり、市民の情報を守る高いセキュリティ機能を備え、市民の暮らしを支える、安心・安全な庁舎とします。

効率性・機能性の高い庁舎

便利で分かりやすい窓口サービスなど、よりよい市民サービスを提供するとともに、環境にもやさしい効率的で機能的な庁舎とします。

基本機能

【市民サービス機能】

- 窓口の集約化・簡素化
- 人にやさしいデザイン
- プライバシーへの配慮

【事業機能】

- 執務空間の効率化・弾力化
- セキュリティの強化

【議会機能】

【防災機能】

- 安全性の確保
- 防災・災害対策拠点の整備

【交流機能】

【環境共生機能】

市民の交流を育み、緑園都市を体現し、まちの活性化を先導する庁舎

「ちたアクティビティプレイス」

1. 知多市の玄関口にふさわしいにぎわいを生み出す「ゲートプレイス」

基本構想における中街区の整備方針を十分に踏まえ、知多市の玄関口にふさわしいにぎわいを形成し、将来計画の街区との整合を図りながら業務を行います。

2. 未来を見据えた環境に優しく使いやすい「ワークプレイス」

基本計画の目標とする庁舎像に加え、感染症対策や自治体DX*の推進、カーボンニュートラルなど、社会状況の変化を見据えると同時に、災害時も安心・安全で働きやすい庁舎をつくります。

3. 市民の暮らしに寄り添い出会いと交流の場となる「サードプレイス*」

市民や訪問者を温かく迎え、交流を育み、わたしたちの心の拠り所になる「サードプレイス」となる庁舎をつくります。



朝倉駅前広場からの全景イメージ

2. 計画概要

敷地概要



項目	内容
位置	愛知県知多市緑町25番1他
計画地面積	約13,015㎡
用途地域	商業地域
建ぺい率/容積率	80%/400%
地区計画	朝倉駅周辺地区計画
防火指定	防火地域
日影規制	なし
高度地区	なし

建物概要

項目	内容
建築面積	約2,730㎡
延床面積	約10,730㎡
構造	鉄骨造 基礎免震構造
階数	5階建て
高さ	約26.5m

スケジュール

	令和5年度 (2023年)	令和6年度 (2024年)	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)	令和9年度 (2027年)
新庁舎	基本設計	実施設計	建設工事	5月開庁 引越し準備	
立体駐車場			実施設計	建設工事	4月供用開始

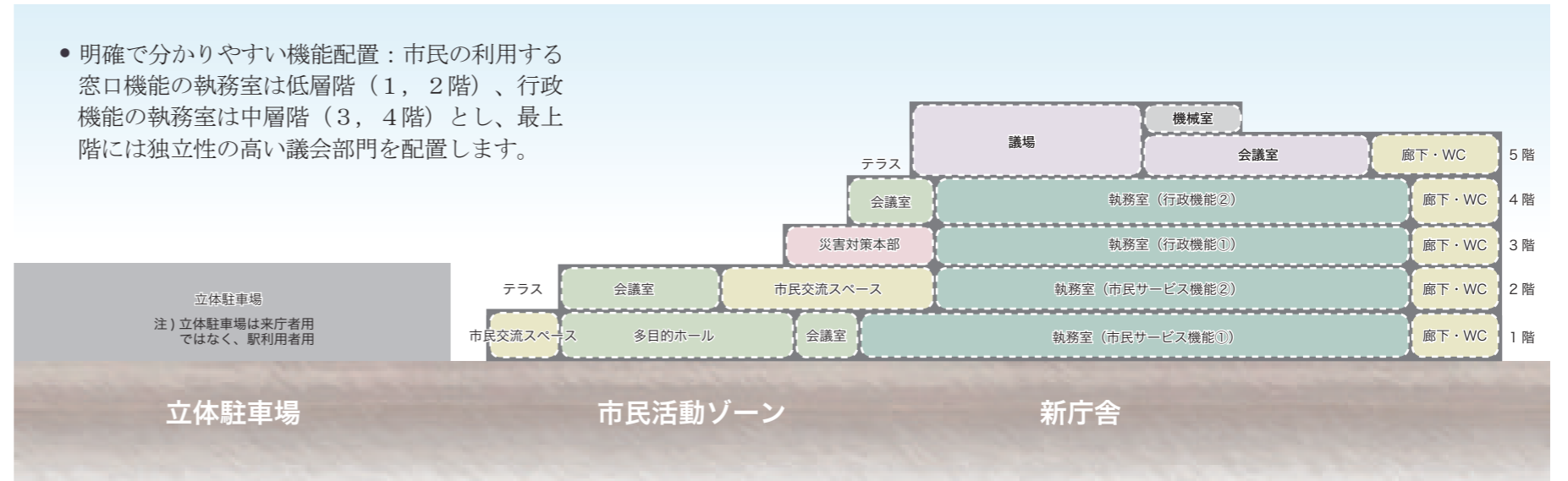
事業費

項目	概算費用 (外構工事含む)	備考
新庁舎工事	約81億円	延床面積：10,730㎡
立体駐車場工事	約8.5億円	規模：3層4段 台数：300台±5%を想定

注) 事業費は、経済状況によって変動する場合があります。

階層構成

- 明確で分かりやすい機能配置：市民の利用する窓口機能の執務室は低層階（1，2階）、行政機能の執務室は中層階（3，4階）とし、最上階には独立性の高い議会部門を配置します。



まちににぎわいを発信する開放的なデザイン

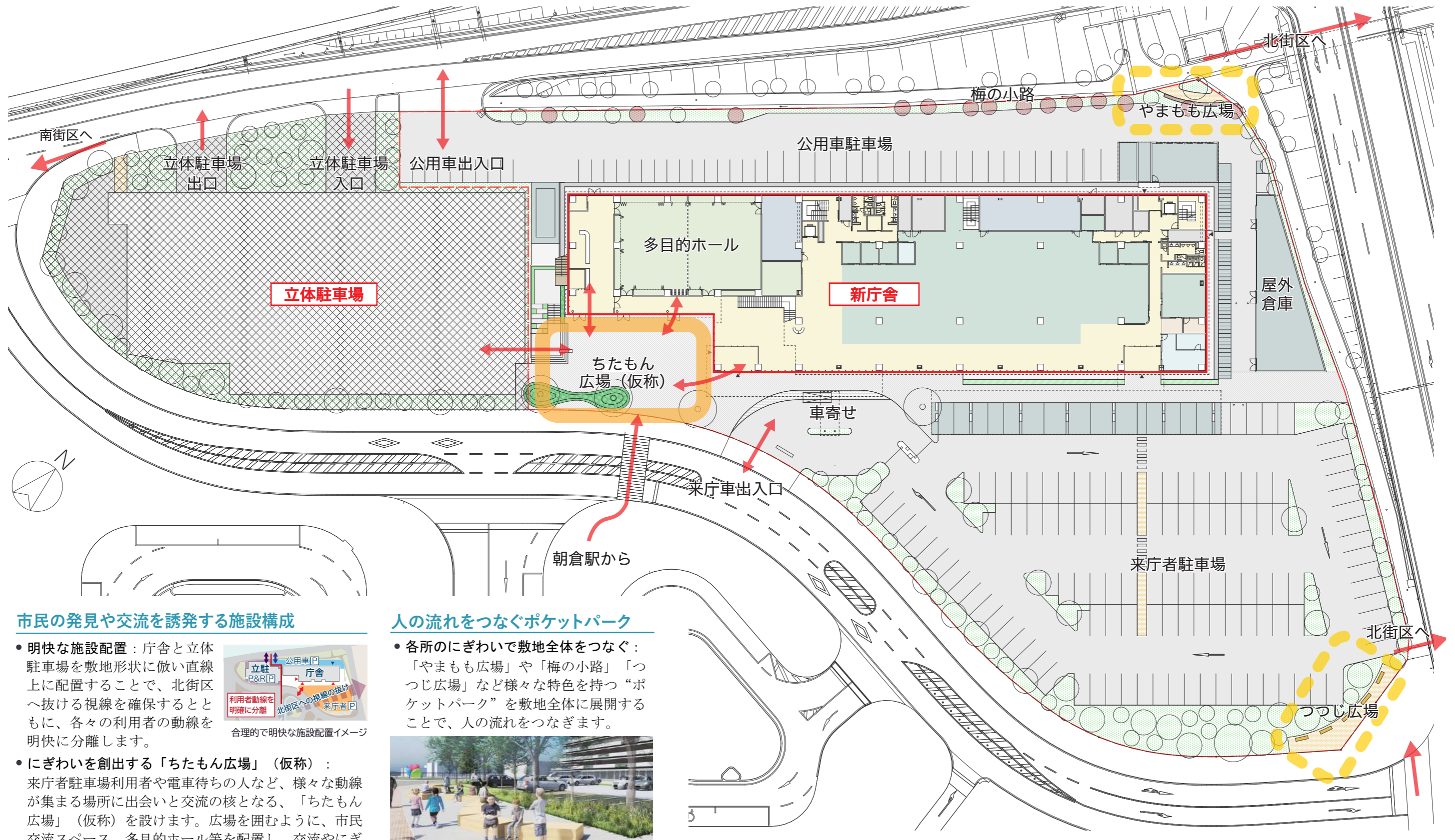
- にぎわいを発信**：多様なアクティビティが電車から見える開放的なデザインとすることで、まちのにぎわいを積極的に発信し、まちの活性化を促進します。
- 市民や訪問者を温かく迎える知多市の「顔」**：緑豊かなグリーンベルトと調和した伸びやかで開かれた外観とすることで、市民や訪問者を出迎えるような知多市の顔づくりを行います。



朝倉駅方向からの全景イメージ

3. 配置計画

市民の出会いや交流を誘発し、にぎわいがまちを活性化するアクティビティ庁舎



市民の発見や交流を誘発する施設構成

- 明快な施設配置：庁舎と立体駐車場を敷地形状に倣い直線上に配置することで、北街区へ抜ける視線を確保するとともに、各々の利用者の動線を明快に分離します。



合理的で明快な施設配置イメージ

- にぎわいを創出する「ちたもん広場」(仮称)：来庁者駐車場利用者や電車待ちの人など、様々な動線が集まる場所に出会いと交流の核となる、「ちたもん広場」(仮称)を設けます。広場を囲むように、市民交流スペース、多目的ホール等を配置し、交流やにぎわいが誘発される施設構成とします。

人の流れをつなぐポケットパーク

- 各所のにぎわいで敷地全体をつなぐ：「やまもも広場」や「梅の小路」「つつじ広場」など様々な特色を持つ“ポケットパーク”を敷地全体に展開することで、人の流れをつなぎます。

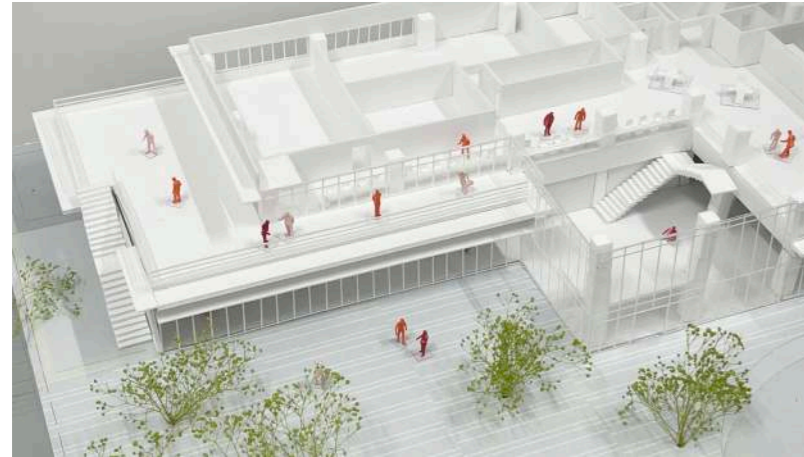


駅前のにぎわいの始点となる「つつじ広場」イメージ

4. 平面計画

市民の発見や交流を誘発する施設構成

- 都市の立体交流広場：庁舎2階の低層部に、「ちたもん広場（仮称）」を囲むようにテラスを設けます。イベント開催時には観客席となり、広場と一体となってまちににぎわいを形成します。



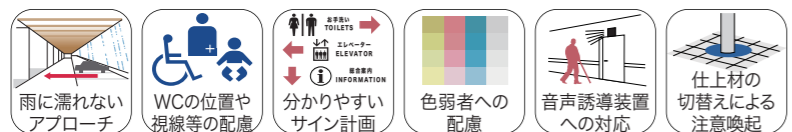
活動が立体交差する広場空間のイメージ



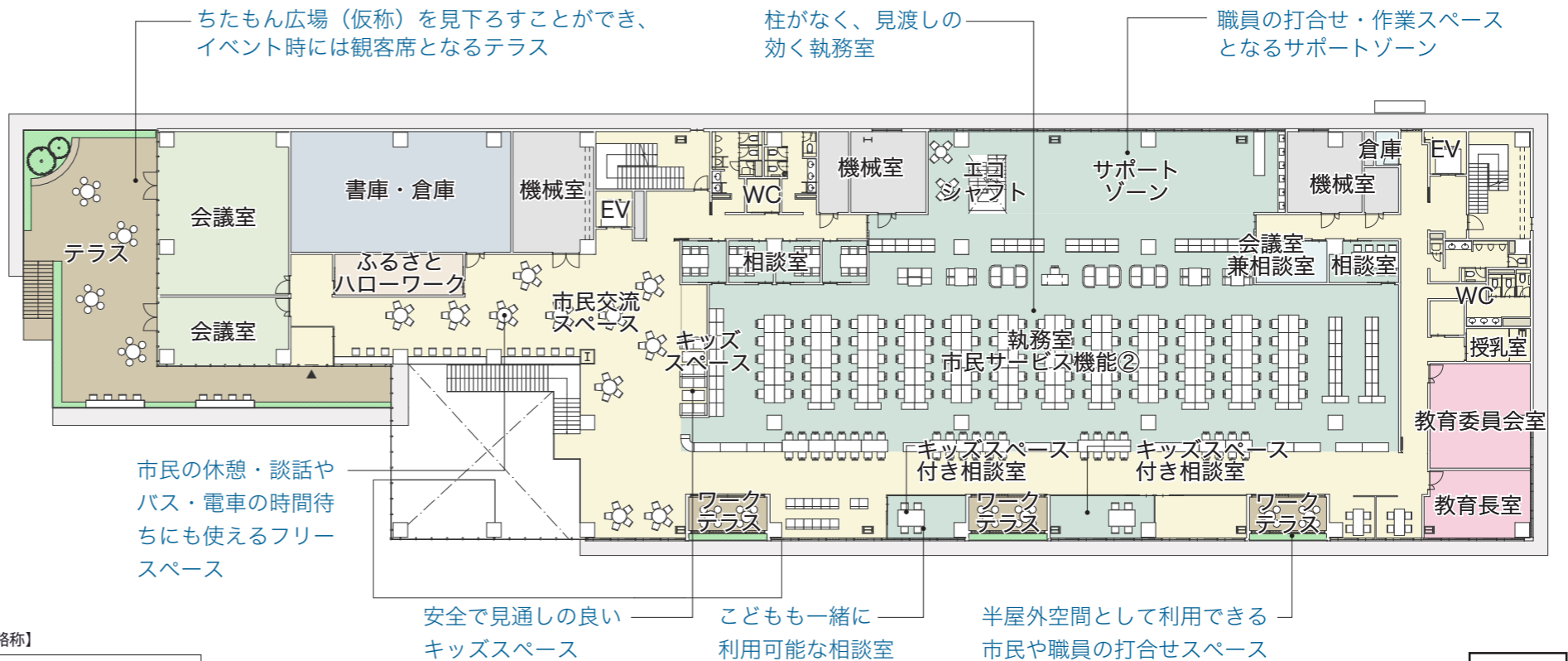
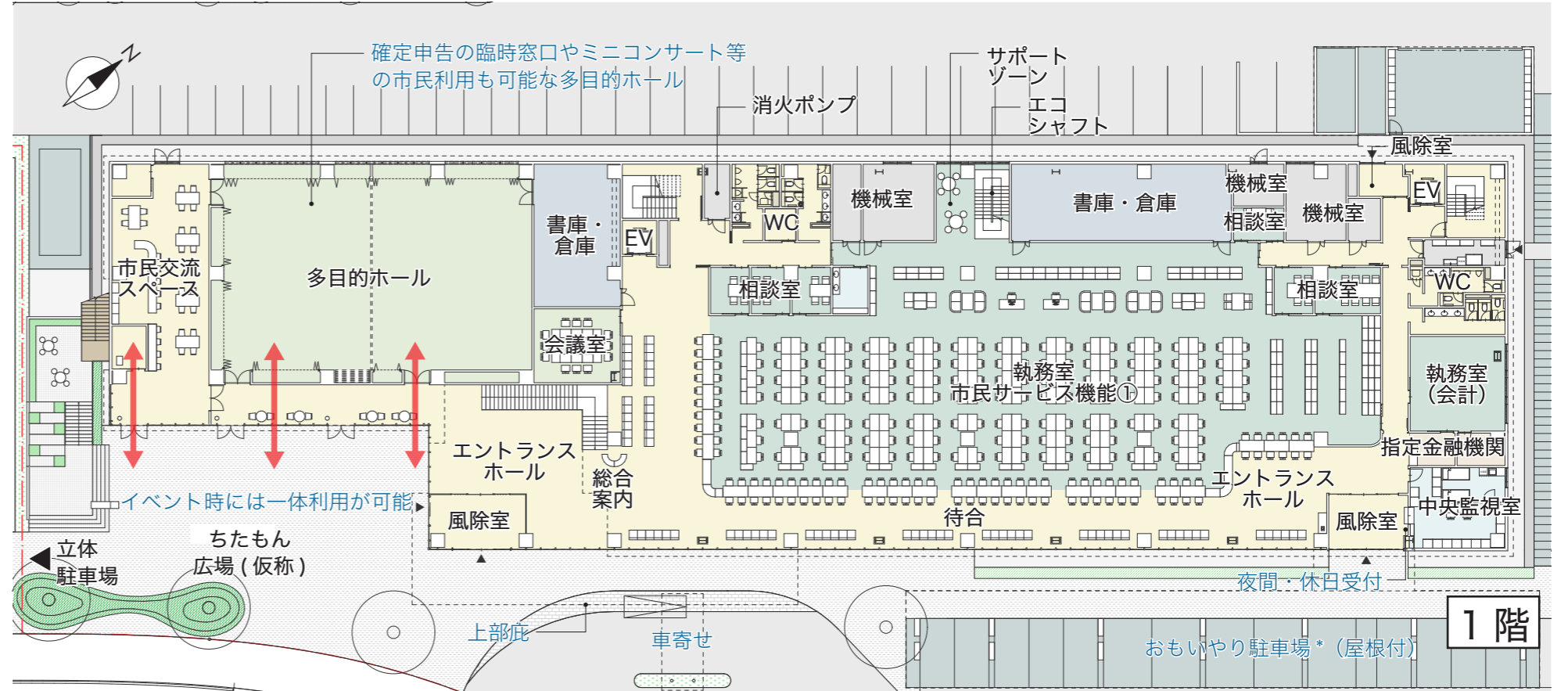
ワークテラスイメージ

すべての人にやさしい「安心の空間」

- 雨に濡れないアプローチ：出入口付近や駐車場には軒下空間を設け、雨に濡れずに来庁可能な計画とします。
- トイレ計画：トイレはこども連れや障がいのある人、LGBTQの利用者など、誰もが快適に使えるタイプ・配置とします。
- サイン計画：案内表示はピクトグラム*を採用します。また、誰もが認識しやすい配色とします。
- 子育て世代への配慮：授乳室、キッズスペースの配置、子育て関連の窓口の集約を行い来庁時に手続きしやすい環境を整えます。



すべての人にやさしいユニバーサルデザイン

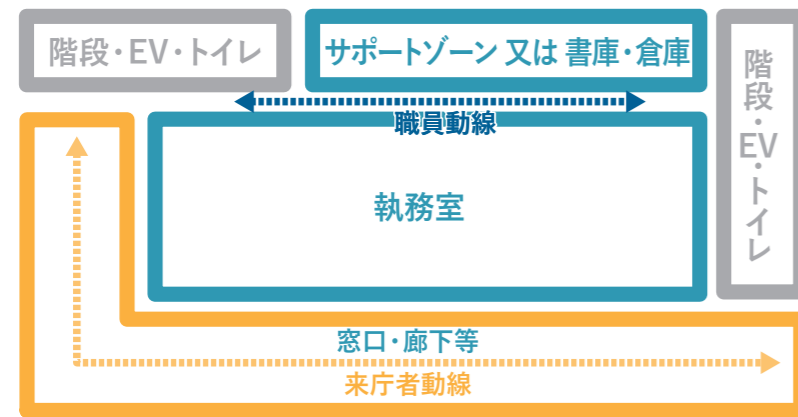


【略称】
WC:トイレ EV:エレベーター

0 2 5 10 20m 2階

明快で分かりやすい機能配置

- 来庁者と職員の動線を分離：来庁者ゾーンは南東側、職員ゾーンは北西側に配置することにより、動線を明快に分離します。執務室は1つのゾーンにまとめ、部署間の仕切りをなくすことで、部署間の連携や将来の組織改編に対応しやすい計画とします。



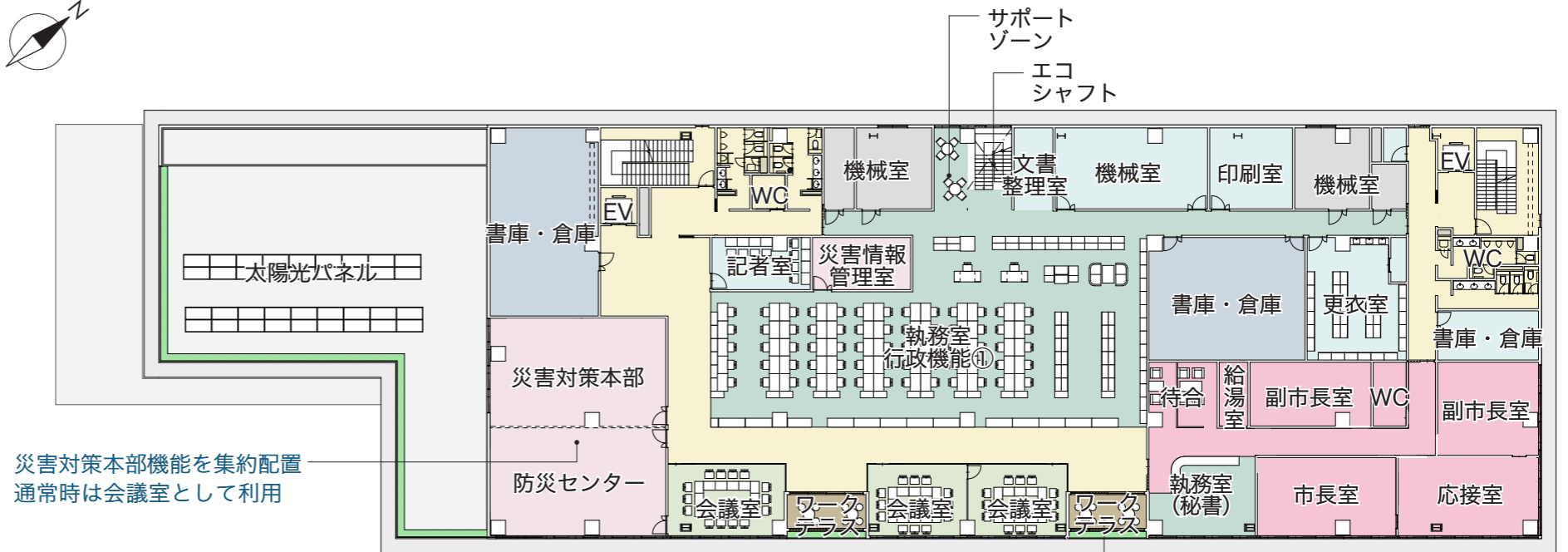
平面機能配置イメージ

市民と職員が利用しやすい平面計画

- 見通しの良いワンルーム空間：エントランスホール近くに総合案内を設け、行き先を把握しやすい案内性の高い計画とします。窓口は隔たりなく見通しの良い計画とするとともに、カウンターに仕切りを設けるなどプライバシーにも配慮します。
- 職員の活動を支える執務空間：執務空間は12m×12m間隔の大空間とし、ワンストップサービス*を始め、組織や時代の変化に対応できるフレキシブル*な計画とします。



窓口・執務室イメージ



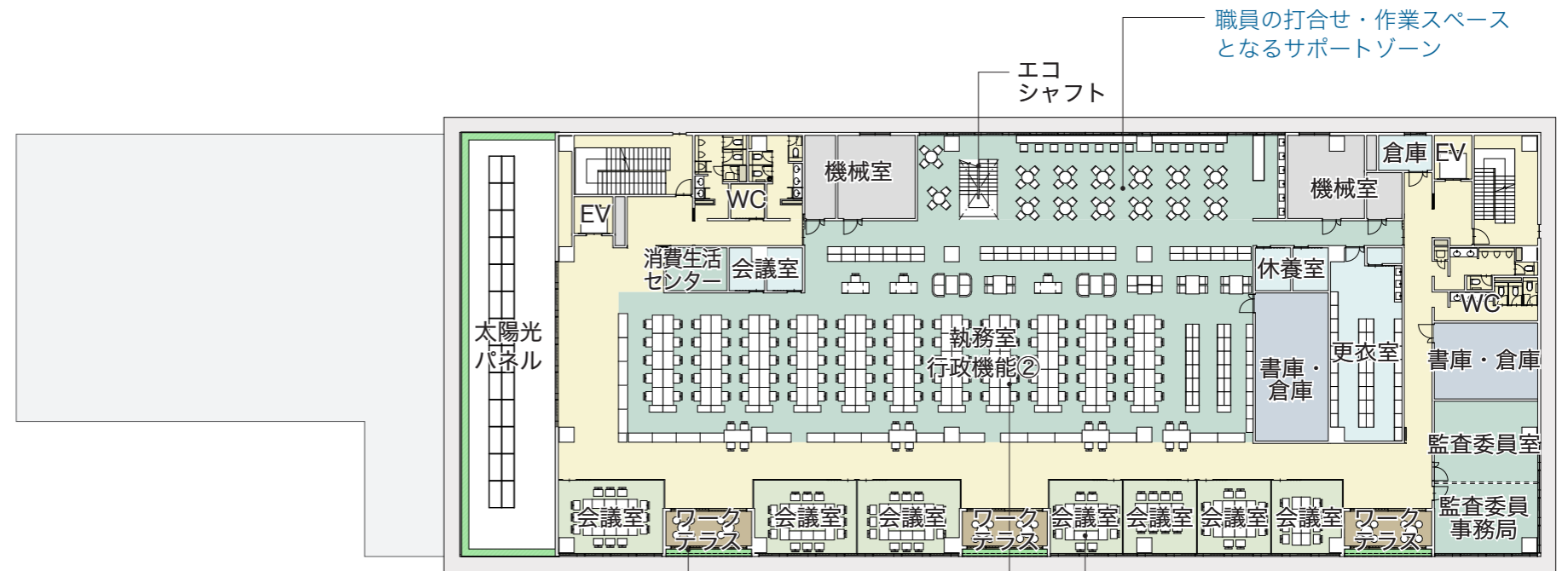
災害対策本部機能を集約配置
通常時は会議室として利用

半屋外空間として利用できる
市民や職員の打合せスペース

3階

【略称】

WC:トイレ EV:エレベーター



半屋外空間として利用できる
市民や職員の打合せスペース

柱がなく、見渡しの
効く執務室

中小会議室を集約して配置

職員の打合せ・作業スペース
となるサポートゾーン

0 2 5 10 20m

4階

独立性と開放性を兼ね備えた議会部門

- **独立性の確保**：議会機能は独立性に配慮して最上階に配置するとともに、セキュリティエリアを適切に確保します。
- **動線の分離**：議会・執行部と、傍聴者の動線を明快に分離します。
- **市民に開かれた傍聴ロビー**：傍聴ロビーに面して展望テラスを設け、議会の閉会時も利用可能な市民の憩いの場とすることで、議会をより身近に感じられる計画とします。

議会におけるバリアフリー *対応

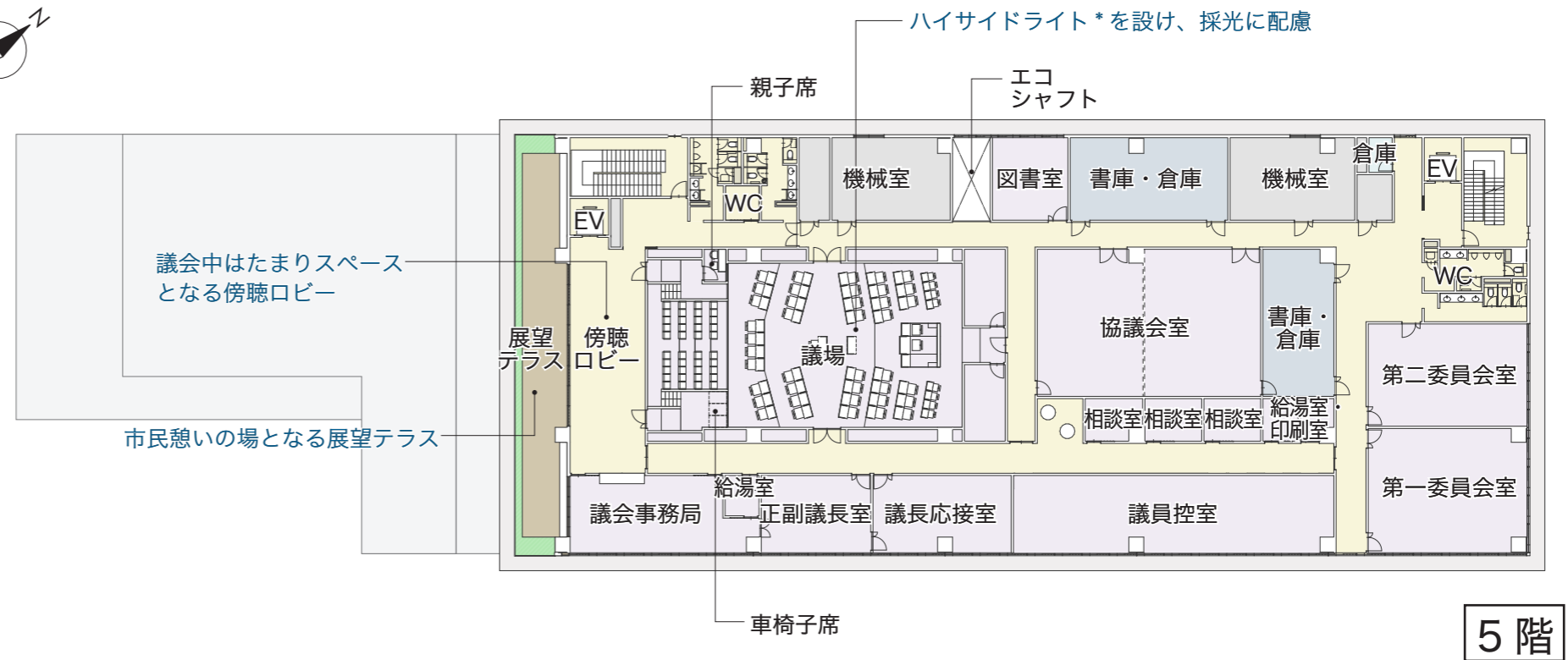
- **議場のバリアフリー**：議員席、理事者席ともに段床は最小限とすることで、議場としての格式と車椅子利用者のアクセシビリティを両立させた計画とします。
- **傍聴席のバリアフリー**：傍聴席の最前席に車椅子席を設けるほか、子連れでの傍聴に配慮した親子席を設置します。



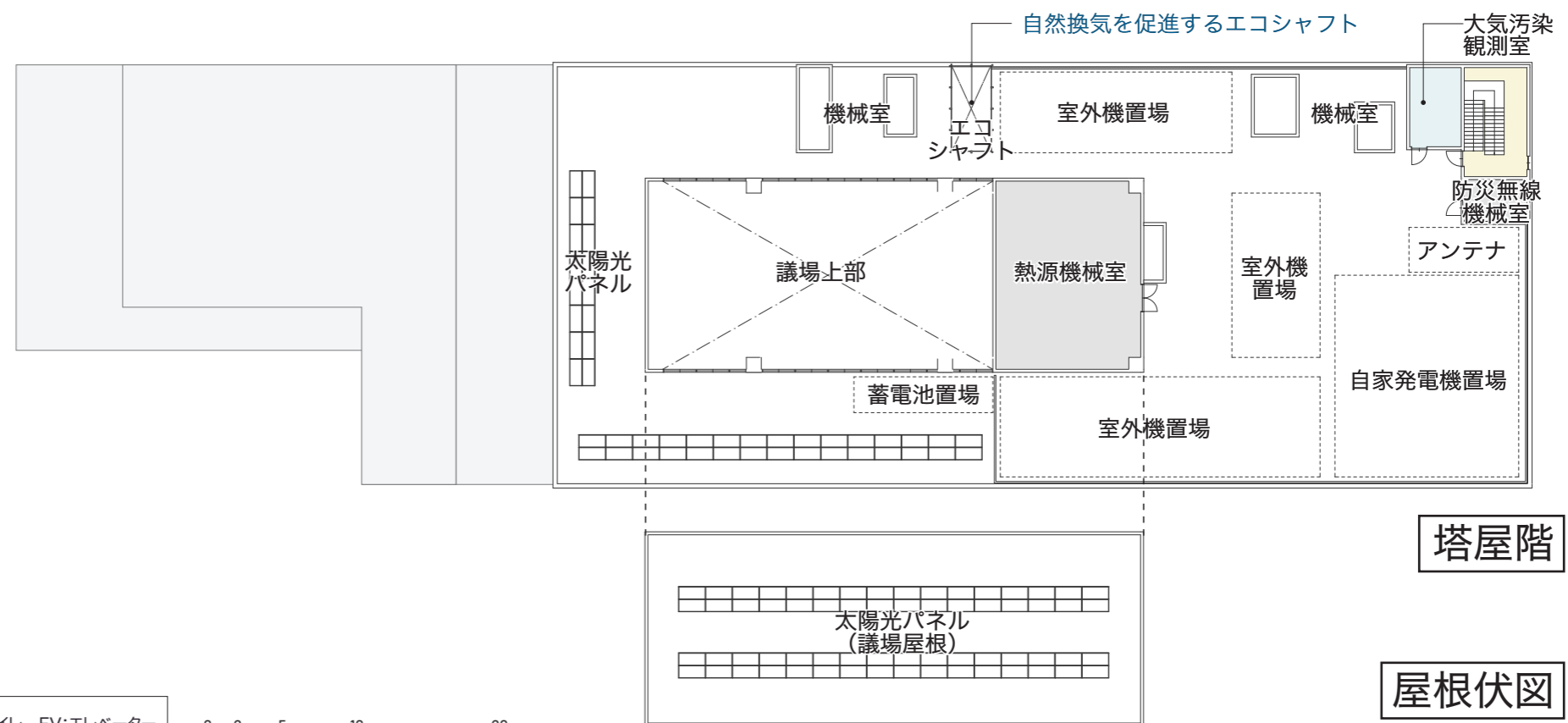
展望テラスイメージ



議場内観イメージ



5階



塔屋階

屋根伏図

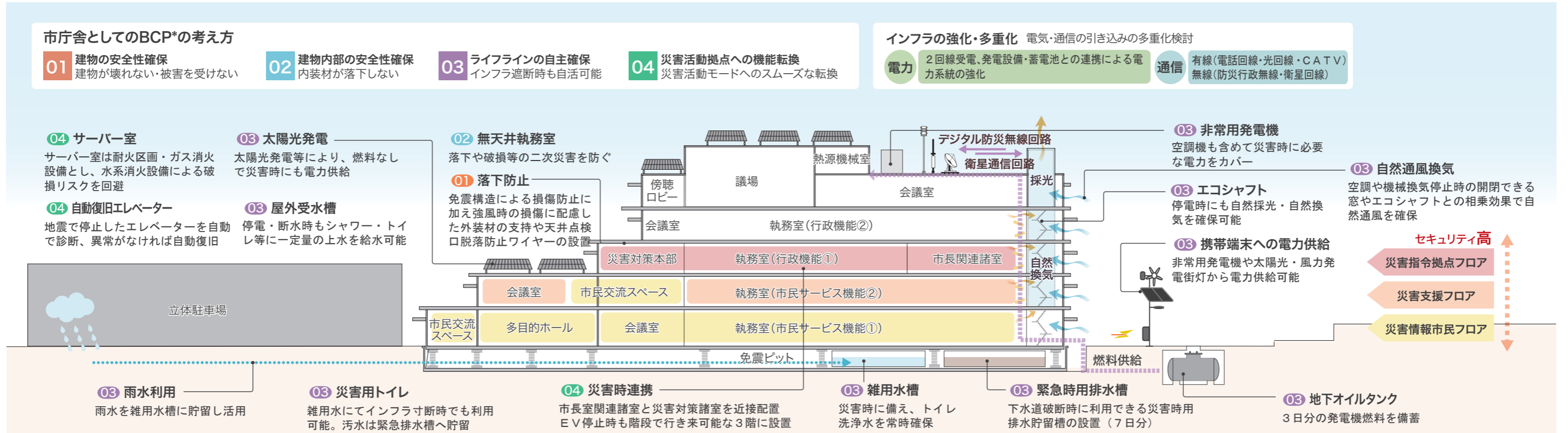
【略称】

WC:トイレ EV:エレベーター



5. 防災計画

あらゆる災害に備え、市民の安心・安全を支えるレジリエント*庁舎



BCPの考え方イメージ

堅牢で合理的な構造計画

- 地震に強い構造形式：構造種別は鉄骨造の基礎免震構造*とします。ブレース*・間柱により、剛性を高めることで、免震効果を高める計画とします。

構造種別	鉄骨造 (ブレース付)	鉄筋コンクリート造 (ブレース付)	鉄骨鉄筋コンクリート造 (鉄骨梁)
意匠設備計画	◎ (柱サイズを小さくできる)	△ (ブレース付のため設備計画に制約が出る)	○ (柱スパンを大きくできる)
免震構造との相性	◎ (ブレースにより剛性が高い)	◎ (剛性が高い)	○ (比較的剛性が高い)
工期	◎ (最も工期が短い)	△ (工期がかかる)	○ (鉄骨造より工期がかかる)
コスト	◎	○	○
評価	◎	○	○

構造種別比較

免震構造*計画

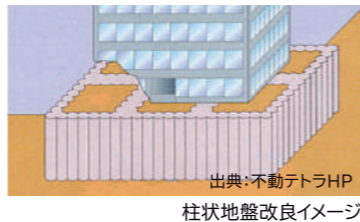
- 基礎免震構造：建物下に積層ゴムやオイルダンパー等をバランスよく配置した基礎免震構造*とすることで建物全体を免震化し、高い耐震性能を確保します。



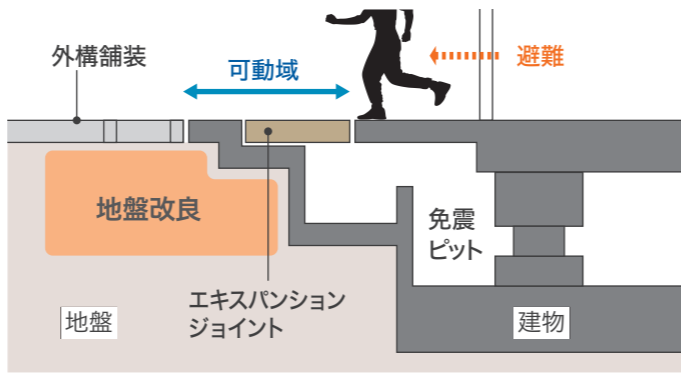
免震装置イメージ

地盤改良・液状化対策

- 柱状地盤改良：格子状に柱状地盤改良を行うことで、建物荷重を支持するとともに地盤の液状化を抑制し建物の沈下を防ぎます。
- 不同沈下*対策：出入口部及び避難経路となる外構スペースは地盤改良を施すことにより、外構部の沈下を防ぎます。これにより免震床可動部分の損傷を防ぎ、避難安全性を確保します。



柱状地盤改良イメージ



免震構造による可動部イメージ

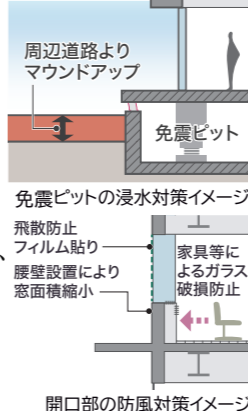
安全性の確保

- 執務室の無天井化：執務室は、天井の仕上材や設備を最小限とし、非構造部材の落下などが生じない安全な経路を確保します。



執務空間の無天井化イメージ

- 万一に備えた浸水対策：本敷地は津波・高潮共に浸水範囲外ですが、万一に備え、周辺よりマウンドアップさせることを想定します。
- 想定外の暴風に備えた外装計画：近年大型化する台風へ備え、腰壁による飛来物防止やバルコニーによる落下物対策、飛散防止フィルム貼等の対策を検討します。



開口部の防風対策イメージ

最新の知見に基づく感染症対策

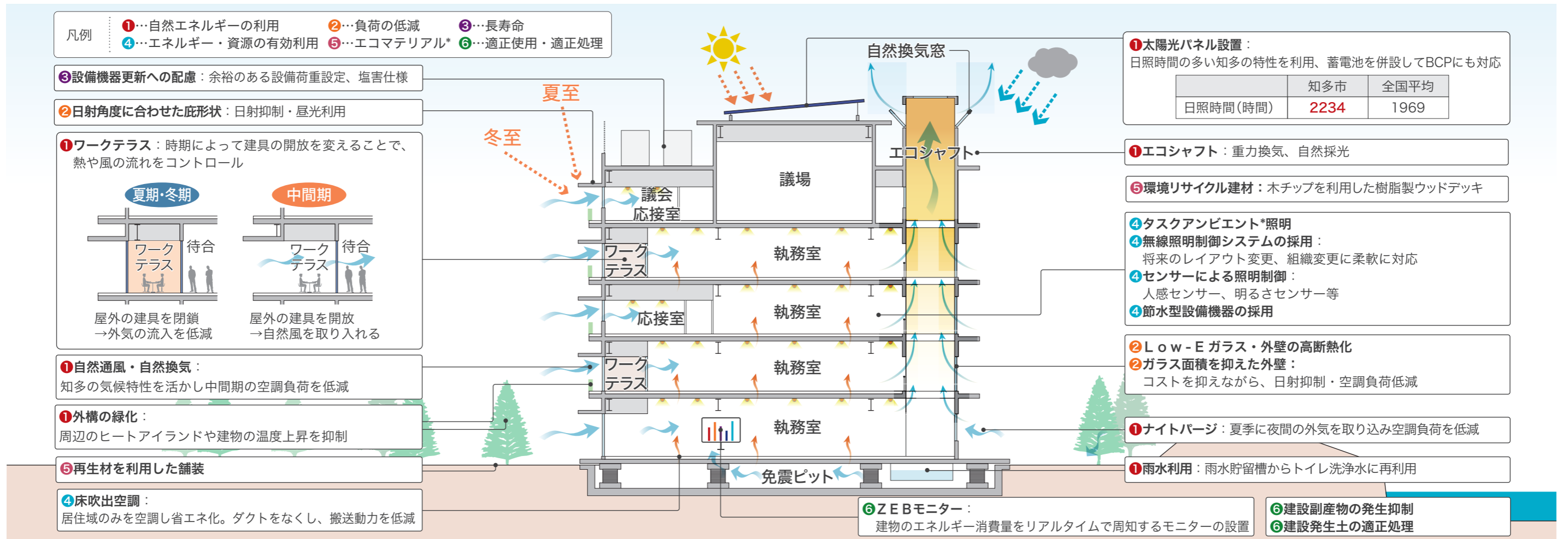
- #### 設備的手法
- 厚生労働省の推奨する「一人当たり30m³/h以上かつ2回/h換気以上」を確保
 - 高性能フィルターによりウイルスを捕集
 - 人感センサーの採用により、接触機会を低減

- #### 建築的手法
- 目的に応じたエリア分けを行いやすい空間構成
 - 主出入口の扉はオートドア、トイレはドアレス*とするなどドアの非接触化の徹底
 - カウンターは飛沫防止パネル着脱可能
 - 昇降機のボタンは赤外線による非接触型
 - 執務室等の開口部は、機械換気と併用して職員が自由に開閉できる自然換気窓を設置
 - 半屋外空間の執務室（ワークテラス）の設置

建築計画と設備計画による感染症対策

6. 環境計画

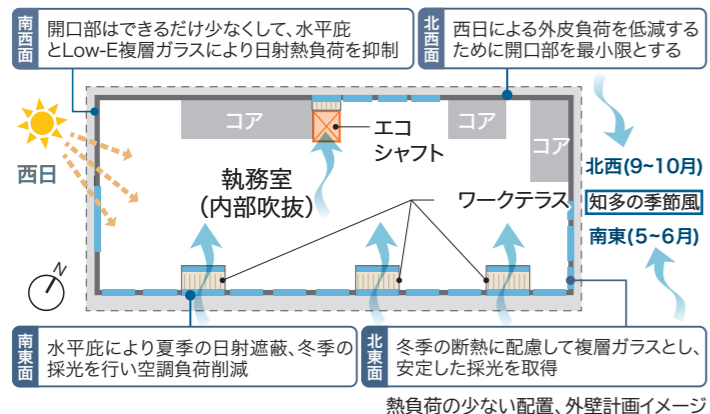
脱炭素社会を先導し、緑園都市を体現する持続可能な庁舎



環境断面図イメージ

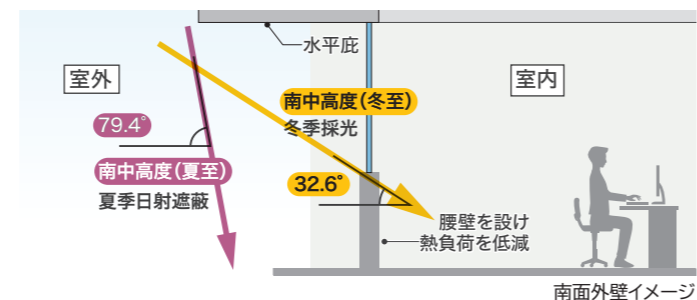
自然の力を活かしたパッシブデザイン*

- 熱負荷を低減する外装計画：方位に応じて採光と負荷低減を両立させる最適な外壁・外装を計画します。
- 太陽と風を活かした自然換気：エコシャフトを利用した温度差換気と併せて、知多の季節風（南東及び北西）を建物内に積極的に取り込むことで、効率的な自然換気を促進します。



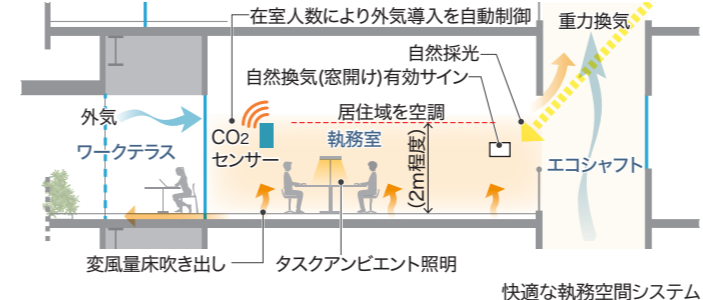
熱負荷を考慮した外装計画

- 開口部周りの熱負荷低減：開口部には腰壁を設けることで、室内への直射日光を抑制し、熱負荷を低減します。
- 空調負荷を抑える水平庇：夏季は直射日光を遮り冷房負荷を削減、冬は日光を取り入れることで暖房負荷を削減します。
- 高断熱化による負荷低減：外壁や屋根は高断熱化を徹底するとともに開口部にはLow-E複層ガラス*を採用することで、熱負荷の低減を図ります。



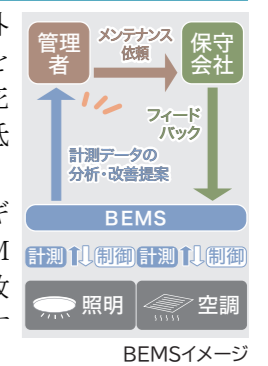
省エネで快適なウェルネス庁舎

- 床吹出し居住域空調：空調された空気を床から微風速で吹き出し、居住域のみを効率的に空調することで、省エネで快適な温熱環境と静かな執務空間を実現します。
- 省エネ技術を運用する最適化制御：CO₂センサーにより、最適な外気導入量を自動制御するほか、画像センサーによる照明制御など最新のセンシング技術を用い、常に最適化された設備運用を行うことで、エネルギー消費効率を高めます。



維持管理費の低減

- ライフサイクルコスト*の低減：外壁にはメンテナンスバルコニーを設けるとともに、窓上部の水平庇によって、窓ガラス面の汚れを低減します。
- BEMS*の活用：竣工後のエネルギー管理については、BEMSの導入により計測データの分析、改善提案を行い運営にフィードバックすることで、維持管理費を低減します。



ZEB*庁舎の実現に向けて

- ZEB認証：様々な省エネルギー技術を総合的に検証し、一次エネルギーを消費量50%以上削減するZEB Ready以上を目指すとともに、「レジリエンス強化型ZEB」による補助金取得を目指します。

巻末・用語集

基本設計用語集

用語	説明
エコマテリアル	優れた特性、機能を持ちながらより少ない環境負荷で製造、使用、リサイクルまたは廃棄でき、しかも人に優しい材料もしくは材料技術のこと。
おもいやり駐車場	障がいのある方や高齢の方、妊産婦、ベビーカーをお使いの方などの、歩行・移動に配慮が必要な方のための駐車スペースのこと。
サードプレイス	自宅や職場とは別の居心地のよい第3の居場所のこと。
自治体DX	DXとは、デジタルトランスフォーメーションを意味する。都道府県や市区町村などの自治体が最新のデジタル技術を活用して、既存システムや業務フローの効率化を目指す取り組みのこと。
ZEB	Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。省エネ技術で一次エネルギー消費量を30～40%（建物用途による）以上削減する「ZEB Oriented」と、50%以上削減する「ZEB Ready」、そこからさらに、創エネ技術（太陽光発電等）を加えて、75%以上を削減する「Nearly ZEB」と、100%以上を削減する「ZEB」の4種類からなる。（出典：環境省ホームページ）
タスクアンドアンビエント照明	オフィスの照明を、部屋全体を明るくする「アンビエント照明」と、机上など作業に必要な場所だけを局所的に明るくする「タスク照明」の2種類に分ける照明方式。全体照度を下げることによって、省エネ効果を高める。
ドアレス	トイレにおいて、入口の視線を遮るように形状を工夫することで、ドアを設けない計画とする設計手法
ハイサイドライト	採光や通風のために設けられる高窓のこと。
パッシブデザイン	建物を取り巻く自然や環境が持っているエネルギー（日射、気温、風、雨水、地熱など）を活用してエネルギー消費を抑えながら、快適な環境を実現する設計の考え方のこと。
バリアフリー	対象者である障がいを持つ方や高齢者等が、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障壁を取り除くこと。

用語	説明
ピクトグラム	絵文字、絵言葉のこと。図記号の一種。表現対象である事物や情報から視覚イメージを抽出、抽象化し、文字以外のシンプルな図記号によって表したものの。
BCP（事業継続計画）	企業や官公庁などで、通常業務の遂行が困難になる事態が発生した際に事業の継続や復旧を速やかに遂行するために策定される計画
BEMS	Building and Energy Management Systemの略。室内の温熱環境やエネルギー消費量の最適化を図るため、照明や空調などを一括して制御、管理する中央監視システム。
不同沈下	同じ施設内において、場所によって沈下量の異なる地盤沈下のこと。これによって地盤に段差や傾きが生じる可能性がある。
ブレース	柱と柱の間に斜めに入れて、建物に作用する風圧力や地震力（水平方向の力）を負担する部材。筋交いともいう。
フレキシブル	変化に対する柔軟性や融通性。建築においては、用途や機能の変化、増築や改修、間取りの変化などに対応可能な建物の性質を意味する。
免震構造	建物の強度を増して地震に対抗する耐震構造に対して、基礎部と上部構造の間に免震装置（積層ゴムなど）を配置することで、地震による振動エネルギー（ゆれ）を直接建物に伝えない構造
ユニバーサルデザイン	年齢や障がいの有無、体格、性別、国籍などにかかわらず、全ての人に適合するデザインのこと。
ライフサイクルコスト	建物の建設費用だけでなく、企画・設計・施工・運用・維持管理・補修・改修・解体・廃棄に至るまでの必要なトータルコストのこと。
レジリエント	回復力、弾力性、柔軟性を意味する言葉。建築・防災分野では特に、災害が発生した際の建物の回復力や復元力を示す。
Low-E複層ガラス	複層ガラスの内側又は外側のガラスに特殊金属膜をコーティングしたもので、断熱性、遮熱性に優れる。
ワンストップサービス	行政サービスにおいて複数の課にまたがる手続きやサービスなどを、一か所あるいは一度にまとめて提供するようにして、来庁者の利便性の向上を図ること。